

スチュワート **Frances Stewart**

『**Technology and Underdevelopment**』 第二版、1978 刊

本書は、イギリスの経済学者スチュワートが 1977 年の初版に加筆修正を加え、翌年に第二版として出版された。著者は刊行当時オックスフォードのコモンウェルズ研究所に所属していたが、その後、1993 年から 10 年余りにわたりオックスフォード大学国際開発学部の学部長を務めたほか、国連の開発政策委員会の委員長なども歴任している。

タイトルが示すように、本書は低開発国の経済開発における技術が及ぼす影響または技術の役割を分析し、貧しい国々での不公平な所得配分や資源管理の不備をもたらす経済の二重性と先進国への技術的な依存構造を解き明かすことを試みている。それ以前の経済学者や国際開発分野の研究者の理論をレビューし、それらの欠陥を指摘し、技術選択のメカニズムをマクロ的な視野で捉え、技術的依存構造の中でより適正なオルターナティブな技術へと向かう道の困難な状況を明らかにしている。出版された当時、その悲観的な結論に暗澹たる思いを感じた読者が多かったことは想像に難くない。しかし、約 40 年後の今日的視点で見直すと、貧困と格差の問題が根強く世界を覆い続け、適正技術をめぐる議論が一時の隆盛を失った背景を考えるための視座を、本書が与えてくれているといえよう。

まず、雇用や所得配分の問題に始まり、先進国の技術が低開発国の発展をゆがめている状況、適正技術の性質、適正技術を導入する際の障害、技術的な依存構造へと議論は展開する。適正技術については、シュマッハーが記した「1000 ポンド技術と 1 ポンド技術の中間にある 100 ポンド技術」という考え方には異論を唱え、先進国の技術と、それ以外の経済圏の技術の、どちらと相対したものなのかで技術の性質が異なると主張する。一方、先進国の技術は先進国の社会経済状況に貢献するものであるから、低開発国がそれを導入すれば、先進国や自国の先進セクターにのみ有益な状況が生まれ、発展のゆがみが生じ、その状況を維持しようとする低開発国は先進国の技術に依存する構造となるとする。

また、技術を選択する幅は想像以上に広いにもかかわらず、技術選択はそれを決定する者の目的、決定者が直面する制約、異なる技術などとの相互作用という複雑なプロセスになること、技術がパッケージとして持ち込まれるためオルターナティブな技術は運用が困難になり効率が低下してしまうこと、先進国と低開発国の先進セクターとの強固な同盟が自らの利益の脅威となるオルターナティブな技術を好まないことなどが、技術選択の幅を狭める背景として説明される。さらに技術は、システムの中の単なる要素（パラメーター）ではなく、変化に対して中立的なものでもないとした上で、技術そのものが経済システムの産物であり、その経済構造に立脚する政府に、技術選択のメカニズムをコントロールする力はないと切り捨てる。つまり技術選択のメカニズムは、現行の経済や技術のシステムの結果であり、コントロールが及び難いというのである。

このような状況を打破するには、低開発国における機械などの資本財を生産するローカルな態勢をつくること、国際貿易体制を低開発国間の貿易を重視するように変えることが

提案されている。そこでは、資本財を生産する技術が技術的革新につながる技術開発の循環を生み、ローカルなニーズに対応するローカルなイノベーション（革新）を生み出すための環境をつくっていくことが意図されている。

（笹本浩子）

[書誌データ]

Stewart, Frances, *Technology and Underdevelopment*, Second Edition, The Macmillan Press Ltd., 1978

[目次]

Preface to the First Edition

Preface to the Second Edition

Introduction

1. The Technological Choice
2. The Employment Problem - a Conceptual Discussion
3. Inappropriate Technology
4. Appropriate Technology
5. Technological Dependence
6. Capital Goods in Developing Countries
7. Trade and Technology
8. The Choice of Technique: Empirical Studies
9. The Choice of Technique - Maize Grinding in Kenya
10. Cement Block Manufacture in Kenya
11. Some Conclusions

Bibliographical References

Index